

## 理事長が聴く【菺野町長対談】

当センターの理事長が県内各地の首長や注目を集める人物と「地方自治」の様々なテーマについて対談を行うシリーズ「理事長が聴く」。

今回は鈴鹿山脈の麓に広がる、自然が豊かで、温泉や登山が楽しめるまち、菺野町の 諸岡 高幸町長 との対談をお届けします。

対談日：2026年5月1日

### (田中俊行 三重県地方自治研究センター理事長 以下 (理事長) )

この「理事長が聴く」は、県内各市町の首長の皆さまに、地方自治に関するさまざまな課題や今後の展望についてお話を伺い、その内容を機関紙『地方自治みえ』や当センターホームページで発信していく企画です。自治体職員の皆さまや当センター会員の皆さまと共有し、これからの地域づくりを考えるヒントにさせていただくことを目的としています。

それでは、よろしく願いいたします。

菺野町は、電話や窓口対応に『AI さくらさん』を導入されていたり、ご当地カプセルトイ『街ガチャ in 菺野町』で町の魅力を詰め込んだキーホルダーを販売するなど、色々な取り組みをされていますね。

### (諸岡高幸 菺野町長 以下 (町長) )

令和6年度に、いなべ市との定住自立圏形成協定を結び、名古屋市や四日市市などの町外から地域活性化起業人の方々に来ていただいて、町職員とタッグを組んで『AI さくらさん』や『街ガチャ』などの新たな取り組みを企画いたしました。『AI さくらさん』につきましては、すでに活躍していただいておりますが、現在も少しずつ経験を重ね、より適切な対応が行えるように学習しています。

『街ガチャ』につきましては、予想以上の反響をいただいております。当初2,000個準備したものがすぐになくなり、4,000個の追加発注をいたしました。聞いた話ですが、湯の山温泉の仲居さんの方が購入されて栓抜きなどにつけてくれているみたいで、大好評のようです。

### (理事長)

町長自らもキーホルダーになっているとのことで、菺野町のPRに絶大な効果があるようですね。

それでは、これから菰野町について伺いする前提として、諸岡町長が考える菰野町の魅力についてお聞かせいただきたいと思います。

#### (町長)

ご存じの通り、菰野町には鈴鹿山脈があって、その自然と水と緑が魅力ですね。御在所ロープウェイが昭和34年に開業し、その景観の中で観光の町として湯の山温泉街が活性化してきました。これから人口減少していく中で、どこの市町もどのように活性化していったらいいかと模索していく中で、先ほど申し上げた菰野町ならではの魅力を前面に出していくということになると思います。菰野町は、湯の山温泉を中心とした、その大きなロケーションの中で、観光地の強みをしっかり活かしていかないといけない。この繋がりにくい時代だからこそ、繋がりと連携を大事にし、各産業が繋がっていくような仕組み作りをし、観光の町として魅力を発信していきたいと考えています。

#### 【テーマ①】湯の山温泉のさらなる活性化に向けた取組について

##### (理事長)

自然を生かした中で、湯の山温泉という観光地を中心として、総合的に魅力を組み合わせ、各産業が繋がっていくような仕組みづくりをしていくということですね。

今、町長さんからお話が出た、その最大のポイントである観光の町としての魅力発信という観点から、湯の山温泉の現状と、活性化に向けた取組みの中で特に印象に残っている取組みや成果をお聞かせいただけますか。

##### (町長)

菰野町の湯の山温泉は開湯1300年という歴史がある中で、山岳信仰、湯治文化で栄えてきました。高度経済成長期には現在のような家族や友人などの少人数でというよりは、会社などの団体で来られる場所というような感じで、湯の山温泉も栄えてきたのですが、旅行スタイルが変わってきたことや、活動範囲が広がったことで、湯の山温泉街に宿泊していただく方が減ってきています。ご存じのように、営業を行っていないホテルや旅館が点在しており、これらをどうするかを考えることが最大のポイントとなってきております。四季折々の魅力を生かしたうえで、御在所ロープウェイを含め、湯の山温泉を中心とした活性化をどのように進めていこうかと考えております。

具体的な取組みの一つ目としては、インバウンドに力を入れたいと考えており、昨年、大阪にある台北駐大阪経済文化弁事処に出向き、総領事の方とも会

わせていただきました。台湾は親日派の方も多く、また、雪を見たことがない方も多いため、御在所スキー場にも沢山来ていただいているようです。なので、そういったことも含めて、交流することによって菰野町へも泊まっていただくことができるのではないかと考えています。

二つ目として、本町が誇る湯の山温泉の魅力として、ラドン効果について発信していきたいと考えています。これまで様々な調査を進めてきた結果、鈴鹿花崗岩（白い石）に含まれるラジウムから放出される放射線が、地下水に溶け込み、自噴する源泉を通じて地上へと運ばれていることが分かっています。この源泉から高濃度のラドンが空気中に拡散し、川の流れに沿って山際へと滞留しているのです。こうした環境から、私は『菰野の空気は健康食品』であると確信しています。今後、豊かな森林浴とラドン浴を組み合わせることで、皆様の心身の健康をより一層サポートできるよう取り組んでまいります。元々湯治文化で発展してきた町なので、温泉を中心とした中で、町の皆さんと協力しながら活性化していくのがいいだろうと考えています。温泉を中心とした中で、ラドンを活用して健康と癒しの空間づくりができないかと考えています。

#### **(理事長)**

源泉と森林浴とラドン浴というのはすごく斬新な発想ですね。

観光の町としての活性化については、高校や大学との包括的連携をされているとのことですが、成果などについてお伺いします。

#### **(町長)**

平成26年に名古屋外国語大学との包括連携協定、令和4年に四日市大学、令和5年に東海学園大学との包括連携協定を結んでいます。ただ、連携協定を結ぶ前から、学生の皆さんから菰野町の観光の活性化について色々な提案をいただいております。現在ですと観光ポスターのキャッチフレーズを考えていただいております、その中から8作まで絞り込んだ後、公共施設などに配置して町民の皆さんに投票していただいて、一番投票数の多かったものがその年の観光ポスターとなっています。

この活動は十数年間続いているのですが、私たちではなかなか思いつかないニュアンスのキャッチフレーズで、とても面白い発想をいただいております。

他には、学生さんたちにグループ毎でプロモーションビデオを作っていたりしたこともありでしたね。

#### **(理事長)**

四日市商業高校の生徒が菰野町の活性化について提案したということも耳に

したことがあるのですが。

**(町長)**

四日市商業高校の生徒が「ちゃいろがーるず」という名前で、実際にホテルや女将の会とも協力して菰野町の地域活性化を目指して活動してくれました。その「ちゃいろがーるず」に参加していた生徒のうち、そのまま鹿の湯ホテルに就職した子もいるようです。

**(理事長)**

最近そういう学生がフィールドワークで勉強するというのがすごく増えていますね。やはり地域との繋がりが大事という考え方が浸透してきたんでしょうね。

**(町長)**

そうですね。町民盆踊り大会と燈火祭りというイベントがあり、三滝川沿いでランタンを浮かべるのですが、三重大学の学生さんも参加してくれていて、そうした色々なところで地域の活性化に協力いただいています。

また、三重大学はガストロノミーウォーキングイン湯の山温泉というイベントでもボランティアでお手伝いいただいています。

**(理事長)**

ありがとうございます。

湯の山温泉に関しての取り組みで、今後特にこういうことを考えているというようなことがありましたら、最後に一つお聞かせいただけますか。

**(町長)**

湯の山温泉を活性化するには、やはりインバウンドと、色々な産業と連携していかないと難しいかなと思います。湯の山温泉というよりも、町全体を活性化することによって、当然その一番核となる湯の山温泉が栄えてくる。また、源泉をいかに人に売り出す宝にするかを考えないといけない。もともとラドンが含まれている源泉というものがあって、それですと湯の山温泉が栄えてきたのですが、それを PR をできるような仕掛け作りをしていこうと考えています。

**(理事長)**

湯の山温泉単独で考えるのではなく、町全体として推し進めていこうという考えですね。

**(町長)**

はい。外への発信もそうですが、やはり中の人たちにも魅力を知っていただいで、気軽に湯の山温泉へ来ていただけるようにしたい。年配の方は映画『男はつらいよ』の寅さんシリーズにしっかり興味を持っていらっしゃるので、その舞台となった湯の山温泉を、湯の山ロケ地資料館にコーナーを設けてPRしています。喫茶店など、気軽に立ち寄っていただけるほのぼのしたお店にも頑張ってもらっているので、そういったお店を地元の人たちにいかに発信していくかということが大事なので、地元の皆さんと協力しながらやっていきたいと思っています。

**(理事長)**

インバウンドという意味では、外国の方は、東京や大阪、京都はもう十分足を運んでくれている。今注目されているのは大都市ではなく、日本の原風景が残っているようなところになってきています。そういう意味では、菰野町の湯の山温泉は、そういう宝をいっぱい持っておられるすごくポテンシャルが高い場所であると、お話聞いていて感じましたね。

**(町長)**

その中で、特に何故台湾かというと、魅力の感じ方が国によっても違うなかで、台湾の方は地域との交流を大事にされる印象があります。雑貨店やコンビニに入って、どこか庶民的な感覚を持っておられるので、菰野町のような田舎の町を好んでいただいている。雪もそうですし、温泉もあるし、まさに菰野町でおもてなししやすいと考えています。

**【テーマ②】新名神高速 菰野 IC 開通後の町の現状と今後の取組について**

**(理事長)**

続きまして、2番目のテーマですが、新名神高速菰野 IC が開通しましたが、開通後の町の現状と、今後インターを活かしてどのような取り組みを考えておられるか、お聞かせください。

**(町長)**

菰野 IC ができてから、昨年には大阪万博もありましたが、相乗効果があるかと思ったのですが、なかなか難しい部分もあり、湯の山温泉の集客も思ったより伸びなかったというのが現状です。名古屋から1時間で来られるようになったので、日帰り客が増えてはいるのですが、湯の山温泉まで足を延ばしていただき

大きな賑わいを見せるというところまでは至っていませんので、湯の山温泉に対するメリットがないわけではありませんが、ゴルフ場への集客が増えていると伺っています。コロナ禍に比べ客足は増えてはきているのですが、利便性が上がった分、少し遠方からでも日帰りで来られるような形になり、今まで宿泊しなければ来られなかった人が日帰りで来られるようになってしまい、滞在時間が短くなってしまっているところに観光部門では課題があると話しているところです。さらに遠方へ向けてのPRが必要と感じています。

**(理事長)**

なるほど。高速が通るのはいいですが、逆に素通りされてしまう逆の効果もある、とよく言われますね。

**(町長)**

そうですね。やはり素通りというのも当然増えたと思います。ここから京都に1時間もかからずに行けてしまうのですからね。菰野ICができて、10年ほど前からその周辺で土地区画整理組合のほうで土地区画整備事業を行っていたのですが、やっとIC西側の工業系の地区で造成工事が始まっており、これから町の活性化に繋がっていく大きな部分であると思っています。

**(理事長)**

企業誘致や団地開発とかいうのもその中に入ってきますか。

**(町長)**

そうですね、ICから西側約17ヘクタールが工業系。ICの東側約29.6ヘクタールが商業系と住居系です。まだ、商業系住居系の方の土地は手付かずですが、こちらも土地区画整理事業の計画区域内であり、土地区画整理組合関係者の皆様にご尽力をいただいています。それから、IC周辺については、都市マスタープランの中で新都市拠点として位置づけしています。

**(理事長)**

土地活用ですね。人口はいかがでしょうか。ICの影響はありますか。

**(町長)**

人口は少し減っています。2018年がピークで41,800人でしたが、今41,000人を少し切るぐらいになってきました。全国的な問題なのですが、市街化区域の方は伸びているのですが、調整区域の方がちょっと深刻な状況と言えます。

**(理事長)**

でも減り方は少ないですよ。

**(町長)**

そうですね。ただ、今の子供の数でいくと市街化調整区域で減ってきているので危機感を持っています。

**(理事長)**

次に、菰野町 MaaS「おでかけこもの」について、今の利用実績や課題、今後の展開などをお聞かせいただきたい。

**(町長)**

MaaS は、菰野町地域公共交通会議が主体となり取り組んでいます。名古屋大学の教授の助言や、交通事業者の方のご意見、ご協力をいただきながら進めてきました。当初、菰野町では福祉バスを走らせていたのですが、民間の路線バスが一部廃線になったことも含め、町民の方の足をどのように確保するかということを考え、平成 16 年に福祉バスと路線バスを統合した形の中でコミュニティバスの運行を開始しました。しかしながら町内全域をできるだけ細かく走らせたのですが、利用されるところと利用されづらいところがあり、効率が悪いということから、地域公共交通会議のご意見で、デマンドタクシーを介して、コミュニティバスとの乗り継ぎを行う体制づくりをしようということになりました。現在、デマンドタクシーの乗降場所が約 310 箇所あります。デマンドタクシーでコミュニティバスの停留所まで行って乗り継いでいただくと目的地まで割引料金で行っていただくことができます。ただ、デマンドタクシーで目的地へそのまま行ってしまうとその料金をお支払いいただくことになるので、乗り継ぎしていただくように案内しています。

デマンドタクシーは町民の皆さんに WEB で予約をしていただくのですが、WEB 上の「おでかけこもの」で予約から決済まで全て完結できる。そのような体制を作り上げてきたことは、全国でも先進的で、国土交通省から表彰していただきました。町民の方からは、特に高齢者の方ですが、デマンドタクシーの乗降場所が近くにあっても家の前まで迎えに来てほしいとか、夜 8 時以降はなかなかタクシーの予約が取りづらいしデマンドタクシーもコミュニティバスも走っていないので、どうかしてほしいという、その辺りの要望が多く寄せられています。

**(理事長)**

どんどんニーズは多様化していきますよね。

**(町長)**

それに加えやはり観光地なので、観光地へのバスの関係もあります。今、一部の観光地にしかバスは行ってないので、町内各所の観光地へバスを走らせて欲しいという観光事業者さんの思いも聞かせていただいています。

**(理事長)**

今も名古屋からの直通バスは出ているんですね。

**(町長)**

はい。湯の山温泉や御在所ロープウェイの方へ来ています。

**(理事長)**

そのバスともうまく組み合わせられるといいですね。

町民の方にとっては、デマンドタクシーとコミュニティバスの乗り継ぎのパターンみたいなものがあると便利ですよ。例えば、この時間帯に病院へ通院する場合は、ここでデマンドタクシーに乗って、コミュニティバスに乗り継ぐといいです、というようなものはあるのでしょうか。

**(町長)**

今、まさに取り組んでいるところです。乗り継ぐと運賃に割引がかかりますので、乗り継ぎの方が便利に使えますというところを頑張って周知しているところです。ただ、ご自宅の近くの乗降場所からデマンドタクシーに乗ると、乗り換えせず一本で行きたいという方も多くいらっしゃいますので、デマンドタクシーの利用がひっ迫するような時間もあつたりします。乗り合い乗り換えも含め、利用していただけるような取り組みを考えているところです。

**(理事長)**

ありがとうございます。

観光に関連して聞き漏れてしまったのですが、地域資源としての特産品のマコモの活用について、今どんな状況でしょうか。

**(町長)**

菰野町がマコモを利用するのに特化してやらせていただいているのは、葉っぱを粉にして使うというものです。普通はマコモダケとって、マコモの根元の部分に黒穂菌を入れて膨らんだ部分を食するのが中心だと思うのですが、菰野町では食の関係よりも健康食品としての観点から葉を使っています。抗菌作用

もありますし、すごく栄養価も高いということで、皆さんに普及したいという強い志の方がみえました。元々役場の職員が電子レンジでチンして乾かして粉にするなどの研究をしていたのですが、細かい粉末から餡を作ったり、お饅頭に入れたりして発信しています。農薬は使っていませんし、除草も全部手作業で、随分手間がかかるということと、生産者も高齢化してきて、後継ぎをどうするかという課題もあります。生産者の募集をかけたところ、現在数名集まってきていて、マコモの会と一緒に生産をしてくれるような話が進みつつあります。最初は手取り足取りでちゃんと覚えていただいて、それから自分たちで独立していけるような形にしていかないと、特産品として出てきたマコモが廃れてしまうといけませんからね。マコモの生産者の皆さんに頑張っていたきたいと考えています。

**(理事長)**

後継者問題ですね。

**(町長)**

昨日ちょうど農福連携で町内の作業所と社会福祉協議会と、菰野町の健康福祉課と観光産業課と合同でマコモの田植えをしたところです。

**(理事長)**

マコモも稲のように田植えをするんですか？

**(町長)**

同じです。マコモは田植えから刈り取りまで全て手作業なんですね。機械ではできないです。だから高齢者の人たちも大変で、本当に手数がいるんですね。

**(理事長)**

マコモというと、やはりマコモダケというイメージがありますね。

**(町長)**

葉っぱから粉にしてその粉を使って餡にすると、消炎作用あるので、喉を痛めた時にいいと言われています。道の駅でも売っていますし、葉を使うことによって色々な加工品ができています。

**(理事長)**

マコモダケもありますが、菰野町の特色としては、マコモの葉っぱを使って加

工品を作っているということですね。

**(町長)**

ホテルや旅館では空気を浄化させるということで、壁に掛けてもらったりしていると聞きます。また、新たな取り組みとして、マコモダケを冷凍保存する方法を開発中とのことで、秋にしか食べられなかったものが、年中市場に出回るようになるかもしれないとのことです。冷凍すると味が劣化するとのことでしたが、味が劣化しない冷凍の方法を研究しているとのことです。

**(理事長)**

なるほど。そういう研究もされているんですね。

**(町長)**

菰野町のブランド品を広げようと、地域の人たちが集まって所々で新たな取り組みが始まってきているようです。こものエゴマ普及会や、そば、蜂蜜を作っている会などもあり、地域を盛り上げてもらっているのが心強いですね。

### **【テーマ③】令和8年度事業の重点取組について**

**(理事長)**

頼もしいですね。

最後に、菰野町70周年ということで、令和8年度の事業の中で特色のある取り組みを教えてくださいませんか？

**(町長)**

令和8年度に新たに取組んでいこうとしていることとしては、「いなべ市菰野町清掃事務組合」を設立し、広域ごみ処理施設の整備を進めることです。また、小中学校給食センターを整備し、令和11年から稼働できるように進めています。その他には、子ども医療費の窓口無料化の対象年齢の引き上げやDXを活用した業務効率化など、未来へ繋がる持続可能なまちづくりを強く推進してまいります。

**(理事長)**

ありがとうございます。あっという間に1時間経ってしまいましたね。

主任研究員からも『街ガチャ』のことをお聞きしたい部分もあったのですが、カプセルの中から町長のキーホルダーが出てくるということで、帰りに試しに

させていただきます。

**(町長)**

ありがとうございます。町内に9箇所ございますのでよろしく申し上げます。電子決済のみ対応しています。観光客はもちろん、町内の方からも好評いただいているようで、最初の2,000個がすぐ完売と聞いたときはびっくりしましたね。

**(理事長)**

本日は貴重な時間をありがとうございました。